



# を育む会

第18回

発行日：令和2年4月1日  
発行者：「じねんじょ」を育む会  
会長 池内京子  
下関市生野町2丁目28-20  
社会福祉法人じねんじょ内

## 「70-40不安」の渦中で

「じねんじょを育む会」会長 池内 京子

昨年、青山庵は30周年を迎えましたが、その頃から心配ごととも増えていきました。

一人は、年に一度は入退院を繰り返しているAさん(44歳・女性)のこと。

訪問学級卒業後、ご両親は施設入所は全く考えず、在宅介護の利便性を考えて新築転居されました。今回は暮れから二月末まで、お正月を挟んでの入院でした。摂食に課題があり、医師から「そろそろ胃ろうにしては？」と勧められ、決断できないままの退院。お母さんには日常のペースを取り戻したら「白内障手術」が待っています。それも緊急にです。

もう一人は、股関節の手術をされた、Bさん(43歳・女性)のお母さんのこと。

今後はリハビリが長く続きます。Bさんはいつも通う施設にショートステイし、お父さんは施設とお母さんの病院とを毎日通われました。Bさんはお父さんに会うたびに「早く迎えに来て!!」とお母さんの退院を首を長くして待っていました。お母さんの回復具合とこれまでのような在宅介護ができるかが心配です。

さらにもう一人は、足の手術をしたCさん(42歳・女性)ご家族のこと。

Cさんが夜を怖がるので、入院中はお母さんも傍で就寝。同時期、お父さんも市外の病院で手術され、この間、Cさんのお姉さんとお婿さんが協力して支援に当たられました。お母さんはCさんの退院後、白内障の手術。今は順調ですが、今後の不安が大きいです。

親の高齢化は大きな課題です。世間では「80-50問題」が取り沙汰されていますが、しょうがい者家族に「70-40不安」は今、まさに現実です。

Aさんの病院を訪ね、夫が飲み会だったので時間を忘れて話し込んでいたら、とうとう救急出入口から帰ったある夜、お母さんがしんみり言われました。「私の人生って何だったんですかねえ。したいことも諦め、友達も減り、狭い家の中にだけしか-----」と。

Aさんの兄は医療に、弟は福祉に就き市内に、Bさんの弟も医療に従事し県外にいます。

Cさんの姉は市内のヘルパーさんです。しょうがいの兄弟姉妹を持ったのは宿命としか言えませんが、養育する母やそれを助ける父の姿が彼らの将来に大きな影響を与えたことは間違いないと思います。Aさんのお母さんは「お兄ちゃんにも弟にも就職について口を挟むことはなかったのに、いつしかこうなっていました」と話されます。きっと自然にそういう道を選んだのでしょう。「お母さん！ お母さんの人生はソレだったんよ。Aちゃんがもの言わぬ身・動かぬ身体で選ばせていたのよね」「う～ん??-----」

「Aちゃんは偉いよ!!」

家族のためにだけでなく、難題のある人に手を差し伸べられる仕事に就いたご自分の子どもさん達を褒めて欲しい、自慢して欲しいと、心から思いました。遠くにいても近くにいても、いつもAさん、Bさん、Cさんのことを忘れない家族がいる、それは三人のお母さんには大きな心の支えになっているのではないのでしょうか？ 何より、「この娘のために元気でいなければ」という目標があります。でも、それをいつまで続けていけるのか？ モヤのようなその不安は取り除けません。青山庵での話題はいつもそこにあります。 「青山庵 庵主:池内京子」



# 活動報告

◎「じねんじょを育む会」から以下の行事に助成しています。

## じねんじょ公開フォーラム 2019

「みんなで支える-医療的ケアが必要な子どもたちの暮らし-」をテーマに令和元年11月9日(土)に戸枝陽基さん(NPO 法人ふわり 社会福祉法人むそう理事長 日本福祉大学客員教授)を講師にお迎えしフォーラムを開催しました。

「いつでも好きな場所で暮らし、大切な人としていたいことのできる街をつくりたい」の題目で講演をして頂きました。主体者である、それぞれの人の関わり、協働する社会環境の捉え方、仕組みづくりなどを実践活動報告を通して学びました。ありがとうございました。



## じねんじょフェスティバル 2019

令和元年10月20日(日)に「第16回じねんじょフェスティバル」が開催されました。

開会として、じねんじょのメンバーで構成された「Jクラブ」の演奏。みんなで手拍子、歌をうたい「はじまり、はじまり！」



毎回、出品する親御さん主催のフリーマーケット、福祉作業所のバザーはお客さんで盛り上がっていました。

下関少年少女合唱隊の合唱は感動しました。ボランティア、地域のみなさんのご協力もあり、楽しい

一日を過ごすことができました。

「ありがとうございました。」

令和2年度もよろしくお祈りします。



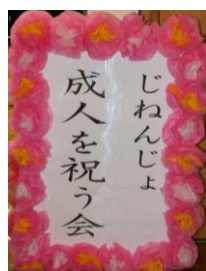
## 成人を祝う会 (令和2年3月13日開催)

今年は1名のメンバーさんが成人を迎えられました。

「成人 おめでとう ございます。」

この度の「成人を祝う会」は、新型コロナウイルスの関係で、会場・日程を下関グランドホテルから「じねんじょ」に変更して挙行することになりました。

会場が「じねんじょ」ということで、本人とお母さん、そしてメンバー(仲間たち)、職員とアットホームな雰囲気の中でお祝いをしました。



「じねんじょを育む会」からは、成人として歩んでとの思いで印鑑を贈りました。

「これからもご多幸を祈念いたします。」

## 馬関まつり 令和元年8月24日(土)

「夏の恒例 馬関まつり！」

愛のひろばでのテント張りは、出店する団体が少なくなり、昨年度の場所から中央に寄ること10メートル！年々寂しくなります。

ゲーム、飲物販売、メンバーの作品即売会、青山庵の野菜や乾物などの販売をしました。

毎年、来店される方、ゲームを楽しみに子どもと一緒に来られる方など多くのひとから「がんばってネ！」「来年も来るネ！」と声を掛けていただき、嬉しい気持ちになりました。ありがとうございました。



**じねんじょ 15周年事業<クリアファイル制作>** (福)じねんじょの15周年記念品としてクリアファイルが作られました。「じねんじょ」の各事業所で制作したパステル画がファイルになった物です。費用の一部を助成させていただきました。



## ○「じねんじょを育む会」会員のみなさまへ

平素より、本会の活動にご協力いただき誠にありがとうございます。さて、当会は社会福祉法人じねんじょが行う各種の事業が円滑に運営され、ひとりでも多くのしょうがいを持つ皆さんが安心して利用ができ、より豊かな活動ができますよう支援をさせていただいています。これからも、会員の皆様には引き続き会員継続とご入会のご紹介をいただき、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

○「じねんじょ」ホームページに「育む会」掲載していますので閲覧下さい。

(<http://www.jinenjo.or.jp/hagukumu.html>)